



日本キリスト教団
三軒茶屋教会
<http://sanchurch.jp/>

三軒茶屋 教会通り

〒154-0024
第40号 2010年12月発行 東京都世田谷区三軒茶屋1-31-5
TEL/FAX: 03-3418-4933
発行: 三軒茶屋教会 広報部

「教会の礼拝に来ていた人たちは皆マジでした」。あるキリスト教主義学校の生徒の言葉である。神学生が聖書科の教育実習で、教会の礼拝に出席した感想を記すという課題の中で語られていた。

「マジで」とは、「真面目に」を縮めた若者言葉だ。ふざけることなく真剣で、偽りや表面的な飾りがなく、真摯で実直だ、という意味だろう。

「マジで」神を礼拝する人が、その生徒の目には新鮮に映った。中途半端な態度ではなく、礼拝にしっかりと集中している人々の姿がその生徒が見たのだらう。それだけ「マジに生きている

大人」を身近で垣間見る機会が実は少なくなってきたというところから、礼拝はこのように人の目を開かせることがある。それまで経験したことがない新しい領域に向かって、その人の魂を開き放つことがある。大きな力に振り動かされるかのように、このような力を生じさせるのは牧師の説教だけではない。牧師の人柄やカリスマ性だけでもない。そこに集められている者たち全員が醸し出す信仰による態度と姿勢こそが鍵と

礼拝に集中する

牧師 伊藤英志

なる。前奏から始まり、讃美歌、聖書朗読、祈り、信仰告白、説教、献金、頌栄。その全てにおいて、何に集中しているかにかかっている。もし仮に朝、教会に来てても親しい人たちどうしの世間話を話していたり、愚痴や不満を口にしながらだけなら、礼拝に向かう雰囲気は損なわれていくだろう。また、もし礼拝に遅刻する者が大勢いたならば、先に着席している人々の真剣な集中の妨げとなってしまうだろう。

される聖書の箇所をその場で慌てて開いている人々が大勢いるならば、その礼拝の場は軽々しいものが漂ってしまっただろう。祈りの姿勢が保てないかもしれない。携帯電話の呼び出し音や、メールの着信音や操作音が漏れ聞こえてくれば、健やかな緊張感は一気に崩れる。

礼拝堂でない所であっても、ベビールームは別として、礼拝に集中せずに礼拝とは直接関係のない他の仕



事をしていたり、おしゃべりをしていられる人がいるとすれば、その礼拝はそこに立つ教会が守っている礼拝とは言い難くなる。

伝道が実を結ばないという嘆きや落胆の声を挙げる前に、伝道のために行えることはまだまだたくさんある。今日の礼拝で朗読される聖書を事前に読んでおく。歌う讃美歌の歌詞を祈りの言葉としてあらかじめ味わっておく。交読詩編の言葉を事前に読んでおく、礼拝の姿勢が整えられよう準備しておく。主が与えてく

たらすのではないだろうか。教会に来て間もない人が「まことに、神はあなたがたの内におられます」と言い表して、ひれ伏して神を礼拝する者とされていくのではないだろうか（イコリント十四・二五）。

誰が見ても、皆そろって「マジで」礼拝している。整然と座ってただ「マジに」礼拝に集中している人々がいる。そのような教会こそが、真に伝道する教会となっていくはずだ。

ださった恵みへの十分な応答としての献金を祈りをもって準備しておく。そうした礼拝に向かうための小さな行い一つ一つが、その教会に力をも